

区分		基礎形成期	成長期	発展期	充実・深化期	
					充実・深化期Ⅰ	充実・深化期Ⅱ
		クラス担任・学級担任など		学年主任、チーフ、主任、副園長など		園長など
キャリアステージの基盤になる資質・能力	倫理観	○社会のルールやマナーを守り子どもの人権を尊重して行動する。 ○要領・指針等や園の方針を理解し、これらに則して行動する。		○高い規範意識に基づく行動が、新人・若手の模範になる。 ○要領・指針等や園の方針について理解を深めるとともに、新人・若手の職員の理解を助ける。		○園の代表者として、園の方針を示し、関係法令等を踏まえた行動をする。
	責任感	○要領・指針等を踏まえ、幼稚園教諭・保育士等としての役割を理解する。 ○園の一員として、職責に応じた業務を遂行する。 ○経験を積み重ねながら、業務上、必要となる知識や技能について主体的に学び続ける。		○園での役割や幼稚園教諭・保育士等としての役割を果たそうとする姿勢が新人・若手の職員の模範になる。 ○社会の一員及び園の一員として行動をすることや、幼稚園教諭・保育士等として主体的に学び続けることについて、自身が取り組むのみならず、新人・若手の職員の意欲を高める。 ○新人・若手の職員の業務の進捗状況を把握し、園内業務を円滑に進める。		○園の代表者として、園の方針に則して職員を統括する。 ○保護者、地域、関係機関の理解と協力の下、園の社会的な役割を果たすことができるよう行動する。
	協調性	○伝え方、話の聞き方など、コミュニケーションに必要な手立てを身に付ける重要性を理解する。 ○他の職員や保護者、地域、関係機関と良好な関係を構築することの重要性を理解する。		○保護者、地域、関係機関と良好な関係を構築するために必要な手立てを身に付け、新人・若手の職員の模範となる行動をする。 ○良好な人間関係が構築されるよう、働きやすい職場風土の醸成に取り組む。		○園の代表者として、職員や保護者、地域、関係機関と良好な関係を構築する。 ○働きやすい職場風土が醸成される環境づくりに取り組む。
	幼児教育・保育を構想する力	○要領・指針等や園の方針を理解する。 ○子どもの興味や関心を捉える。 ○特別な配慮を要する子どもに必要な支援を考える。 ○保育実践時の子どもの姿を予想する。 ○安全確保、活動時間、援助方法などを踏まえた環境構成を工夫する。 ○活動内容、指導方法を振り返り、次に生かす。	○要領・指針等や園の方針を的確に踏まえて行動する。 ○子どもの発達の実情を捉える。 ○特別な配慮を要する子どもに必要な支援を踏まえ、他の子どもと共に育つことができる手立てを考える。 ○保育実践を経た後の子どもの姿を予想する。 ○子どもが自ら環境に関わり、様々な活動を展開し、必要な体験を得られる環境構成を工夫する。 ○PDCA サイクルに基づいた保育実践を進める。	○幼児教育・保育の構想に必要な視点や考えを園内で共有する。 ○要領・指針等や、園の方針を踏まえた幼児教育・保育となるよう、新人・若手の職員を支える。 ○子どもの発達過程、集団性、生活の連続性などを踏まえながら、子どもの姿を予想する。 ○特別な配慮を要する子どもが、他の子どもと影響し合いながら育つことができるよう、長期的な支援の視点を持つことや、集団生活を通して全体的な発達を促すために具体的な手立てを考える。 ○保育実践を通した子どもの育ちと新人・若手の職員の成長を予想する。 ○知識と経験に基づく子ども理解の下、子どもが主体的に遊び、安心して活動することのできる環境構成を考える。 ○子どもの実情から捉えた幼児教育・保育の改善点について助言し、新人・若手の職員の構想を支援する。		○園の理念や建学の精神等に基づく、教育課程や全体的な計画を職員に示す。 ○子どもや保護者、地域、関係機関の実情を捉え職員と共有する。 ○研修等による学びの機会を設け、職員の資質・能力の向上を図る。 ○園の代表者として、より質の高い幼児教育・保育を提供するため、園の自己評価の充実を図り、組織的・継続的な改善策を講じる。
	幼児教育・保育を実践・展開する力	○計画に基づいて実践し、予想した子どもの姿との違いを捉え、臨機応変に対応する。 ○一人一人の子どもの気持ちを尊重する。 ○子どもの年齢ごとの概ねの発達を捉える。 ○楽しみながら、子どもと積極的に向き合う。 ○特別な配慮を要する子どもが安心して過ごすことができるよう、手立てを講じ支援する。 ○子どもの反応から、子どもの興味や関心を捉える。 ○子どもの主体的な活動に触れ、子どもに対する基本的な関わり方を習得する。	○計画のねらいに子どもの興味や関心を近づけられるよう対応する。 ○子どもを尊重し、受容的に関わる。 ○子どもの心身の発達や活動の実態など、個人差を詳細に捉える。 ○必要に応じて集団をまとめることや個別に援助するなどして、子どもの自立的な活動を見守る。 ○特別な配慮を要する子どもが他の子どもと共に活動を楽しめるよう手立てを講じ支援する。 ○子どもが自ら関わり、興味や関心を広げている環境について捉える。 ○子どもがより主体的に活動を楽しみ、多くの経験を得られるよう関わる。	○新人・若手の職員の模範となるよう、保育実践を行う。 ○子どもの発達過程、集団性、生活の連続性などを踏まえ、子どもの得る経験が、子どものより良い育ちにつながるよう対応する。 ○生きる、育つ、守られる、参加するという権利を尊重して子どもと関わる。 ○子どもの発達段階を捉え、発達に応じて適切に関わる。 ○受容的・応答的であることや意図的に見守ることなど、一人一人の子どもや集団に柔軟に応じる。 ○知識と経験に基づき、特別な配慮を要する子どもと他の子どもが互いを感じることや、理解することなどを通して、互いに影響し合えるよう手立てを講じ支援する。 ○子どもの興味や関心を捉え、子どもが自ら関わりたくなる環境を構成する。 ○知識と経験に基づく子ども理解の下、子どもと関わり、子どもの主体的な活動を引き出す。 ○新人・若手の職員の強みや改善点を踏まえ、新人・若手の職員の実践・展開を支援する。		○要領・指針等や園の理念、建学の精神に基づく視点から、園内の保育実践の充実を図る。 ○保護者、地域、関係機関から、園の取組に関する理解と協力を得られるよう、公開保育や情報提供等に取り組む。 ○保育実践中の職員や子どもを見守り、職員の成長や課題を捉え、職員の資質・能力の向上につながる手立てを講じる。
	組織を運営する力	○園内で役割分担に基づいた担当業務の重要性を理解する。 ○先輩職員と連携・協働しながら担当する子どもの保育や、クラスの運営を行う。 ○担当する業務を遂行するため、必要に応じて保護者、地域、関係機関と連携・協働する。	○園内組織の各役割を踏まえ、園全体の業務の進捗状況を確認しながら、担当業務を遂行する。 ○担当する子どもの保育やクラス運営を行いながら、進んで園運営に参画する。 ○園内組織における自身の役割に応じて、保護者、地域、関係機関と適切に連携・協働する。		○園運営についての共通理解を図り、園全体の業務を調整する。 ○職員と協力しながら園の抱える課題等に組織的な対応をする。 ○新人・若手の職員の業務を支えながら、園運営を補佐する。 ○新人・若手の職員が、幼児教育・保育に必要な力を身に付け、組織の一員として活躍できるよう育成を図る。	